

平成28年度

鹿児島県鹿屋市教育委員会・隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会 合同シンポジウム

甦る大隅国の実像

— 古代・中世の大隅半島部の歴史 —



立小野堀遺跡出土の青銅鈴（最上部 直径3 cm）

日時

平成28年 5月15日(日)

午前9:30～午後17:00（午前9:20 開場）

場所

リナシティかのや（鹿屋市市民交流センター）

〒893-0009 鹿児島県鹿屋市大手町1-1

Tel. 0994-35-1001 Fax. 0994-43-0744

共催 鹿児島県鹿屋市教育委員会・隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会
後援 鹿児島大学・鹿児島県教育委員会・霧島市教育委員会
大崎町教育委員会・肝付町教育委員会・東串良町教育委員会
鹿児島県考古学会・南九州城郭談話会

進行表

9:20 … 開場

9:30 … 開会

1. 主催者あいさつ（鹿屋市教育長）
2. シンポジウム開催の趣旨説明（隼人文化研究会世話役 永山 修一）
3. 隼人文化研究会の概要説明（隼人文化研究会世話役 永山 修一）
鹿児島地域史研究会の概要説明
（鹿児島地域史研究会代表 日隈 正守）
4. シンポジウムの日程説明・諸連絡
（鹿児島地域史研究会代表 日隈 正守）

9:50 … 報告開始（報告時間 30分）

「鹿屋市域の遺跡について」稲村 博文（鹿屋市教育委員会文化財センター）
「遺跡から見た大隅国成立前後の社会とその変遷」
中村 直子（鹿児島県考古学会幹事）

10:50 … （休憩 10分）

「奈良・平安時代の犬隅国」永山 修一（隼人文化研究会世話役）
「蒲生八幡神社の成立時期について」
日隈 正守（鹿児島地域史研究会代表）

12:00 … （昼食・休憩 60分）

13:00 … 報告再開

「古代中世の大隅の集落・城館遺跡の変遷」
岩元 康成（始良市教育委員会社会教育課）
「中世大隅半島の港湾について」
重久 淳一（鹿児島工業高等専門学校非常勤講師）
「中世肝付氏の所領支配体制について」
隈元 信一（南九州古石塔研究会理事）
「楡井頼仲と日向・大隅」
大窪 祥晃（志布志市教育委員会生涯学習課）

15:00 … （休憩 10分）

15:10 … シンポジウム 開始

16:50 … シンポジウム 終了

閉会のあいさつ（鹿屋市教育次長）

17:00 … 全日程終了

ごあいさつ

鹿屋市教育委員会 教育長 中野健作



本日、蘇の大隅国の実像と題しまして、シンポジウムが開催されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、先月の「平成28年熊本地震」で亡くなられた方、被害に遭われた方々に心より哀悼の意を表します。4月14日に発生した熊本地方を震源とする地震は、度重なる余震によりまして、熊本県を中心に近隣の各県にも甚大な被害をもたらしております。また、国の重要文化財である熊本城や阿蘇神社など貴重な文化財が崩壊する様子が報道され、やるせなさで胸が締め付けられる思いを抑える

ことができませんでした。まずは被災された方々の一刻も早い生活の復興がなによりですが、心の支えとなり地域の象徴となる文化財も早急に復旧することを願っているところでございます。

今日は、鹿屋市教育委員会、隼人文化研究会、鹿児島地域史研究会の共催によりますこのシンポジウムにたくさんの方のご来場をいただき心から感謝申し上げます。

この講演会には、考古学や歴史学を専門的に研究されている先生方にお越しいただいて、この大隅半島の古墳時代頃から中世ぐらいまでの歴史や文化について、これまでの研究成果を講演していただくことになっております。

私たちの住む大隅半島は、北に高隈連山、南に国見山脈を抱えた広大な台地で形成され、年間を通じて温暖で、暮らしに適したこの地域には、国の指定史跡である塚崎古墳群や唐仁古墳群など、多数の古墳群が存在しており、大隅半島の古墳群が所在する市町が連携して「日本遺産」登録を目指した活動も始めているところでございます。

これらの古墳群は当時、畿内地方の大和政権と何らかの関係を持っていたのではないかとの推察もあり、また、吾平町の中尾地下式横穴墓からは鹿児島県で唯一の象嵌装大刀が見つかっており、大隅半島の歴史に想いを馳せた時、悠久の歴史の奥深さが大きなロマンとなって広がってまいります。

この講演やその後開催されますシンポジウムに参加していただきまして、大隅地域の歴史や文化を再認識することにより、「大隅半島はひとつ」という意識を持ち、今後も連携を深めながら文化財行政の進展とともに、更なる地域間交流が図られることを期待しております。

最後になりましたが、本日は大変ご多忙中、シンポジウムに登壇いただきまして講師の先生方に厚く感謝を申し上げ、また、シンポジウム開催にあたり、ご尽力をいただきました関係各位の皆様に御礼を申し上げまして、開会のあいさつといたします。

シンポジウムの趣旨説明

甦る大隅国の実像 ―古代・中世の大隅半島部の歴史―

鹿児島県域の歴史については、通常旧薩摩国域を中心にした島津氏関係の歴史が注目されてきた。そして旧大隅国域の歴史については、旧薩摩国域の歴史と同じように考えられてきた。しかし2013年、大隅国建国1300年を記念し、大隅国府跡地である鹿児島県霧島市で多くの文化的な記念事業が実施され、その後成果報告書が刊行された。同年10月、大隅国で大きな勢力を有した大隅正八幡宮(現在の鹿児島神宮)、神宮寺弥勒院跡、正八幡宮境内、有力社家であった桑幡氏、留守氏、沢氏、最勝寺氏の館跡等が「大隅正八幡宮境内及び社家跡」として国史跡に指定された。この事を記念して翌2014年11月隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会は鹿児島県霧島市と共催し「大隅正八幡宮の歴史的役割を問う」というシンポジウムを企画し、考古学・文献史学の立場からの4本の研究報告と討論を行い、少なからぬ参加者をえた。

旧大隅国域では、霧島市域、九州自動車道建設にともない始良市域において古代から中世にかけての史跡が発掘調査されて多くの知見がえられた。この事を受けて2015年6月隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会は鹿児島県始良市と共催し「浮かび上がる大隅国の実像―古代・中世の鹿児島湾奥部―」というシンポジウムを開催し、考古学・文献史学の立場から8本の研究報告と討論を行い多くの人々の参加を得た。

しかし旧大隅国域において発掘・調査されている歴史的に貴重な史跡は数多く存在している。旧大隅国域の歴史を多くの人々と考察するために、隼人文化研究会・鹿児島地域史研究会は、大隅半島中央部に位置し交通上も重要な場所に位置している鹿児島県鹿屋市において鹿屋市教育委員会と共催して第3回シンポジウムを企画する事にした。昨年のシンポジウムの傾向を引き継ぎ考古学・文献史学の立場から8本の研究報告と討論を準備している。但し今回は旧大隅国域の歴史をより深く理解するために、隣接する旧日向国域である志布志湾沿岸部を取り扱った報告も計画している。今回のシンポジウムを通して旧大隅国域及び隣接地域の歴史像が今までよりも鮮明になり、1人でも多くの参加者が旧大隅国域及び隣接地の歴史に興味・関心を持ち、旧大隅国域及び隣接地の歴史解明上の成果と課題がシンポジウム終了時に多くの参加者達の中で共有される事を願っている。

最後に今回のシンポジウムは、1人でも多くの市民の方々に鹿屋市の歴史・文化財に関心を持っていただく事を願っている鹿屋市教育委員会との共催企画である事を申し添えておきたい。